

テサロニケ人への前の書

第一章

一パウロ、シルワノ、テモテ、書を父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教會に贈る。願はくは恩恵と平安と汝らに在らんことを。

ニわれら祈のときに汝らを憶えて、常に汝ら衆人のために神に感謝す。三これ汝らが信仰のはたらき、愛の勞苦、主イエス・キリストに對する望の忍耐を、我らの父なる神の前に絶えず念ぶに因りてなり。四神に愛せらるる兄弟よ、また汝らの選ばれたることを知るに因りてなり。五それ我らの福音の汝らに至りしは、言にのみ由らず、能力と聖靈と大なる確信とに由れり。且われらが汝らの中において汝らの爲に如何なる行爲をなししかは、汝らの知る所なり。六かくて汝らは大なる患難のうちにも、聖靈による喜悅をもて御言をうけ、我ら及び主に效ぶ者となり、七而してマケドニヤ及びアカヤに在る凡ての信者の模範となれり。ハそれは主のことは汝等より出でて、啻にマケドニヤ及びアカヤに響きしのみならず、神に對する汝らの信仰のことは諸方に弘りたるなり。されば之に就きては何をも語るに及ばず。九人々親しく我らが汝らの中に入りし状を告げ、また汝らが偶像を棄てて神に歸し、活ける眞の神に事へ、一〇神の死人の中

より甦へらせ給ひし御子、すなはち我ら來らんとする怒より救ひ出すイエスの、天より降りたまふを待ち望むことを告ぐればなり。

第二章

一兄弟よ、我らの汝らに到りしことの空しからざりしは、汝ら自ら知る。二前に我らは汝らの知ることく、ピリピにて苦難と侮辱とを受けたれど、我らの神に頼りて大なる紛争のうち、憚らず神の福音を汝らに語れり。三我らの勸は、迷より出でず、汚穢より出でず、詭計を用ひず、四神に嘉せられて福音を委ねられたる者なれば、人を言はせんとせず、我らの心を鑿たまふ神を喜ばせ奉つらんとして語るなり。五我らは汝らの知ることく何時にても諂諛の言を用ひず、事よせて慳貪をなさず、神これを證し給ふ。六キリストの使徒として重んぜらるべき者なれども、汝らにも他の者にも人よりは譽を求めず、七汝らの中にありて優しきこと、母の己が子を育てやしなふ如くなりき。ハかく我らは汝らを戀ひ慕ひ、なんぢらは我らの愛する者となりたれば、童に神の福音のみならず、我らの生命をも與へんと願へり。九兄弟よ、なんぢらは我らの勞と苦難とを記憶す、われらは汝らの中の一人をも累はすまじとて、夜晝工をなし、勞しつつ福音を宣傳したり。一〇また信じたる汝等にむかひて、如何に潔く正

しく責むべき所なく行ひしかは、
 一 汝らは知る、我らが父のその子に對することく各人に對し、
 二 御國と榮光とに招きたまふ神の心に適ひて歩むべきことを勧め、また勵まし、また諭したるを。

三 かくてなほ我ら神に感謝して已まざるは、
 汝らが神の言を我らより聞きし時、これを人の言とせず、神の言として受けし事なり。
 これは誠に神の言にして、
 汝ら信する者のうちに働くなり。
 一四 兄弟よ、汝らはユダヤに於けるキリスト・イエスにある神の教會に效ぶ者となれり、
 彼らのユダヤ人に苦しめられたる如く、
 汝らも己が國人に苦しめられたるなり。
 一五 ユダヤ人は主イエスをも預言者をも殺し、
 我らを追ひ出し、
 一六 我らが異邦人に語りて救を得させんとするを拒み、
 神を悦ばせず、
 かつ萬民に逆ひ、
 かくして常に己が罪を充すなり。
 而して神の怒はかれらに臨みてその極に至れり。

一七 兄弟よ、われら心は離れねど、
 顔にて暫時なんぢらと離れ居れば、
 汝らの顔を見んことを愈々切に願ひて、
 一八 (我パウロは一度ならず再度までも)なんぢらに到らんと爲たれど、
 サタンに妨げられたり。
 一九 我らの主イエスの來り給ふとき、
 御前における我らの希望、
 また喜悅、
 また誇の冠冕は誰ぞ、
 汝らならずや。
 二〇 實に汝らは我らの光榮、
 我らの喜悅なり。

第三章

一 この故に、もはや忍ぶこと能はず、
 我等のみアテネに留ること
 に決し、
 ニキリストの福音において神の役者たる我らの兄弟テ
 モテを汝らに遣せり。
 これは汝らを堅うし、
 また信仰につきて
 勧め、
 三 この患難によりて動かさる者の無からん爲なり。
 患難に遭ふことの我らに定りたるは、
 汝等みづから知る所なり。
 四 我らが患難に遭ふべきことは、
 汝らと偕に在りしとき預
 じめ告げたるが、
 今果して汝らの知ることく然か成れり。
 五 この
 故に最早われ忍ぶこと能はず、
 試むる者の汝らを試みて、
 我ら
 の勞の空しくならんことを恐れ、
 なんぢらの信仰を知らんとて
 人を遣せり。
 六 然るに今テモテ汝らより歸りて、
 汝らの信仰と
 愛とにつきて喜ばしき音信を聞かせ、
 又なんぢら常に我らを懇
 るに念ひ、
 我らに逢はんことを切に望み居るは、
 我らが汝らに逢
 はんことを望むに等しと告げたるによりて、
 七 兄弟よ、われら
 は諸般の苦難と患難との中にも、
 汝らの信仰によりて慰安を得
 たり。
 八 汝等もし主に在りて堅く立たば我らは生くるなり。
 九
 汝等につきて我らの神の前によるこぶ大なる喜悅のために、
 如何なる感謝をか神に獻ぐべき。
 一〇 我らは夜晝祈りて、
 汝らの
 顔を見んことと、
 汝らの信仰の足らぬ所を補はんことを切に
 願ふ。

二 願はくは我らの父なる神みづからと我らの主なるイエスと、

我らわれを導みちびきて汝らなんぢに到いたらせ給たまはんことを。二 願ねがはくは主しゅ、なんぢら相互あひたがひの愛あいおよび凡すべての人に對たいする愛あいを増まし、かつ豊ゆたかにして、我らわれが汝らなんぢを愛あいする如ごとくならしめ、三 かくして汝らなんぢの心こころを堅かたつし、我らわれの主しゅイエスの、凡すべての聖徒せいとと偕ともに來きたりたまふ時とき、われらの父ちちなる神かみの前に潔きよくして責せむべき所ところなからしめ給たまはんことを。

第四章

一 されば兄弟きょうだいよ、終まはりに我らわれ主しゅイエスによりて汝らなんぢに求もとめ、かつ勸すすむ。なんぢら如何いかに歩あゆみて神かみを悦よろこばすべきかを我等われらより學まなびし如ごとく、また歩あゆみをる如ごとくに増ますま進すすまんことを。二 我らわれが主しゅイエスに頼よりて如何いかなる命めい令れいを興たへしかは、汝らなんぢの知しる所ところなり。三 それ神かみの御旨みむねは、なんぢらの潔きよからんことにして、即すなはち淫行いんかうをつつしみ、四 各人おのおのが妻つまを得えて、潔きよくかつ貴たがくし、五 神かみを知らぬ異邦人いほうじんのごとく情慾じやうよくを放縱はなしにすまじきを知しり、六 かかかる事ことによりて兄弟きょうだいを欺あやまし、また掠さらめざらんことなり。凡すべて此等こゝろのことを行おこなふ者に主しゅの報むかひ給たまふは、わが既すでに汝らなんぢに告つげ、かつ證あかしせしごとし。七 神かみの我らわれを招まねき給たまひしは、汚穢けがれを行おこなはしめん爲ためにあらざ、潔きよからしめん爲ためなり。八 この故ゆゑに之これを拒こはむ者は人ひとを拒こはむにあらず、汝らなんぢに聖靈せいれいを興たたまふ神かみを拒こはむなり。

九 兄弟きょうだいの愛あいにつきては汝らなんぢに書かきおくるに及およばず。汝らなんぢは互たがひ

に相愛あひあいする事ことを親したしく神かみに教をしへられ、一〇 また既すでにマケドニヤ全國ぜんこくに在あるすべての兄弟きょうだいを愛あいするに因よりてなり。されど兄弟きょうだいよ、なんぢらに勸すすむ。ますます之これを行おこなひ、二 我らわれが前に命めいぜしごとく力ちからめて安靜しじやうにし、己おのれの業わざをなし、手てづから働はたらけ。三 これ外そとの人に對たいして正ただしく行おこなひ、また自らみづかえしきことなからん爲ためなり。

一三 兄弟きょうだいよ、既すでに眠ねむれる者もののことに就つきては、汝らなんぢの知しらざるを好このぞまず、希望のぞみなき他人ほかの人のごとく歎なげかざらん爲ためなり。一四 我らわれの信しんずる如ごとく、イエスも死しにて甦よみがへり給たまひしならば、神かみはイエスによりて眠ねむり就つきたる者ものを、イエスと共に連つれきたり給たまふべきなり。一五 われら主しゅの言ことばをもて汝らなんぢに言いはん、我等われらのうち主しゅの來きたりたまふ時ときに至いたるまで生いきて存のこる者は、既すでに眠ねむれる者に決けつして先さきだたじ。一六 それ主しゅは、號令がうれいと御使みつかひの長ながの聲こゑと神かみのラツパと共に、みづから天てんより降くだり給たまはん。その時ときキリストにある死人しにんまつ甦よみがへり、一七 後に生いきて存のこれる我らわれは、彼らと共に雲くものうちに取り去とられ、空中くわうちゆうにて主しゅを迎むかへ、斯しかくていつまでも主しゅと偕ともに居をるべし。一八 されば此等こゝろの言ことばをもて互たがひに相慰あひなぐさめよ。

第五章

一 兄弟きょうだいよ、時ときと期きに就つきては汝らなんぢに書かきおくるに及およばず。二 汝らなんぢは主しゅの日の盜人ぬすびとの夜よるきたるが如ごとくに來きたることを、自らみづか

詳細に知ればなり。三 人々の平和無事なりと言ふほどに、滅亡にはかに彼らの上に来らん、妬める婦に産の苦痛の臨むがごとし、必ず通ることを得じ。四 されど兄弟よ、汝らは暗に居らざれば、盗人の來ることく其の日なんぢらに追及くことなし。五 それ汝等のみな光の子ども晝の子供なり。我らは夜に屬く者にあらず、暗に屬く者にあらず。六 されば他の人のごとく眠るべからず、目を覺して慎むべし。七 眠る者は夜眠り、酒に酔ふ者は夜酔ふなり。八 されど我らは晝に屬く者なれば、信仰と愛との胸當を著け、救の望の兜をかむりて慎むべし。九 それ神は我らを怒に遣はせんとにあらず、主イエス・キリストに頼りて救を得させんと定め給へるなり。一〇 主の我等のために死に給へるは、我等をして寤めをとも眠りをとも己と共に生くることを得しめん爲なり。一一 此の故に互に勸めて各自の徳を建つべし、これ汝らが常に爲す所なり。

一二 兄弟よ、汝らに求む。なんぢらの中に勞し、主にありて汝らを治め、汝らを訓戒する者を重んじ、三 その勤勞によりて厚く之を愛し敬へ。また互に相和ぐべし。一四 兄弟よ、汝らに勸む、妄なる者を訓戒し、落膽せし者を勵まし、弱き者を扶け、凡ての人に對して寛容なれ。一五 誰も人に對し惡をもて惡に報いぬやう慎め。ただ相互に、また凡ての人に對して常に善を追ひ求めよ。一六 常に喜べ、一七 絶えず祈れ、一八 凡てのことを感謝せよ、これキリスト・イエスに由りて神の汝らに求め給ふ所なり。一九

御靈を熄すな、二〇 預言を蔑すな、二一 凡てのこと試みて善きものを守り、二三 凡て惡の類に遠ざかれ。
二三 願はくは平和の神、みづから汝らを全く潔くし、汝らの靈と心と體とを全く守りて、我らの主イエス・キリストの來り給ふとき責むべき所なからしめ給はん事を。二四 汝らを召したまふ者は眞實なれば、之を成し給ふべし。

二五 兄弟よ、我らのために祈れ。

二六 きよき接吻をもて凡ての兄弟の安否を問へ。二七 主によりて汝らに命ず、この書を凡ての兄弟に讀み聞かせよ。

二八 願はくは主イエス・キリストの恩恵、なんぢらと偕に在らんことを。